

6月9日、10日の本会議では、延べ16人の議員が質疑・一般質問を行い、議案や市政全般にわたり活発な質問が行われました。(発言順に掲載)

一般質問

一般職の任期付き職員について

高橋佐代子 議員（21政会）

問 このたび3年の任期付で、初めて2人の職員が管理職という身分で採用された。条例によると、一定の期間内に限り、業務量の増加が見込まれ終了する業務となっているが、採用の対象となった公民連携及び市民参画について一定の期間内に終了することが見込めるどのような業務なのか。管理職となれば年間1000万円近い人件費を要するが、大変厳しい財政状況の中で、人件費だけでも任期の3年間、2人で総額約6000万円を投資しなければならぬ事業なのか。

答 公民連携については、3年間で公民連携の一部実施を実現するとともに、その推進の定着までを目的としています。市民参画については、加西市では各地域の部分的な参画が現状となっており、それらの連携を図り、市民参画への市民の意識をさらに高めていきたいと考えています。男女共同参画社会の実現、NPOサポート制度の確立、多文化共生社会の実現

市民と行政間のコミュニケーションの新たな仕組みづくり等の業務があります。この二つの業務についてはいずれも1人に対応できるものではなく、部下を必要とし、庁内の連携もとらなくてはならないため、管理職を採用したものです。

第5次加西市総合計画（平成23年度～平成32年度）策定について

小谷安富 議員（太陽の会）

問 平成32年度末の確定予想人口はどのぐらいを考えているのか。自然の流れに沿っていくのか、6万人位を目標とするのか。

答 平成32年度末の借金はどのぐらいまで減らそうと考えているのか。学校統廃合問題も第5次総合計画に組み入れて方針を出すようにした方がいいと思うが、どのように考えているのか。

答 平成32年度末の市の人口の確定予想については、兵庫県の企画県民部の推計によると、約4万2500人、次世代育成支援後期行動計画の策定のために行った人口推計では、

約4万3100人という結果が出ています。自然増減、社会的増減から見ると、平均年約500人の減少を見込んでいます。総合計画策定に当たり、目標年次の人口の推計値はこれから検討しますが、昨今の厳しい経済情勢や高齢化の進展した年齢構成を勘案すると、もう少し厳しい数値になると考えています。

借金残高の確定予想値は、10年間の事業の多寡により、流動的ではありますが、約277億円と予想しています。内訳は一般会計で約120億円、上下水道で約137億円、病院で約20億円です。

総合計画と学校問題については、整合性を見ながらやっていかなければいけないと考えています。学校にかかることを先導的に施行していけば、総合計画の考え方を固めていく上でもよい影響を与えていくだろうと思っています。

加西保健事務所の移譲について

別府 直 議員（新政会）

問 加西保健事務所が、県の地方事務所の再編で4月以降空きになっている。健康福祉会館に非常に傷んでいる状態の健康増進センターの現在使える機能を移し、診療所のみ保健事務所に置くという考えや、老朽化している教育研修所の機能を持ってきて、青少年センター機能や、教育力向上センター機能を組み入れた学びの館を運営するという考えはどうか。

加西保健事務所の譲り受けについてはいかに財政的に厳しくとも、譲り受けられる水準まで県も努力していただき、ぜひとも譲り受けたいと思います。それによって別の老朽化施設が集約することができ、集約した跡地を現在の時価で売却すれば、加西市に相応の含み



答 加西保健事務所の譲り受けについてはいかに財政的に厳しくとも、譲り受けられる水準まで県も努力していただき、ぜひとも譲り受けたいと思います。それによって別の老朽化施設が集約することができ、集約した跡地を現在の時価で売却すれば、加西市に相応の含み